

釧路市アイヌ施策推進地域計画新旧対照表

新	旧
<p>1～5(略)</p> <p>6 法第15条第1項の交付金を充てて行う事業の内容、期間及び事業費</p> <p>(1)文化振興事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(略) ・(略) ・(略) <p>(2)地域・産業振興事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(略) ・(略) ・阿寒湖アイヌ文化ブランド化に向けた知的財産保護事業 <ul style="list-style-type: none"> 事業内容:4-3掲載事業と同じ 事業期間:令和元年度～令和5年度 事業費:<u>103,477</u>千円 ・(略) ・(略) ・(略) ・(略) ・(略) ・(略) ・アイヌ工芸技術後継者育成事業 <ul style="list-style-type: none"> 事業内容:4-3掲載事業と同じ 事業期間:令和2年度～令和5年度 	<p>1～5(略)</p> <p>6 法第15条第1項の交付金を充てて行う事業の内容、期間及び事業費</p> <p>(1)文化振興事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(略) ・(略) ・(略) <p>(2)地域・産業振興事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(略) ・(略) ・阿寒湖アイヌ文化ブランド化に向けた知的財産保護事業 <ul style="list-style-type: none"> 事業内容:4-3掲載事業と同じ 事業期間:令和元年度～令和5年度 事業費:<u>71,113</u>千円 ・(略) ・(略) ・(略) ・(略) ・(略) ・(略) ・アイヌ工芸技術後継者育成事業 <ul style="list-style-type: none"> 事業内容:4-3掲載事業と同じ 事業期間:令和2年度～令和5年度

新	旧
<p>事業費:<u>47,320</u>千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(略) ・神々(カムイ)に逢える釧路市動物園整備事業 <ul style="list-style-type: none"> 事業内容:4-3掲載事業と同じ 事業期間:令和元年度~令和5年度 事業費:<u>284,490</u>千円 <p>(3)コミュニティ活動支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(略) <p>7~10 (略)</p>	<p>事業費:<u>47,280</u>千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(略) ・神々(カムイ)に逢える釧路市動物園整備事業 <ul style="list-style-type: none"> 事業内容:4-3掲載事業と同じ 事業期間:令和元年度~令和5年度 事業費:<u>289,168</u>千円 <p>(3)コミュニティ活動支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(略) <p>7~10 (略)</p>

釧路市アイヌ施策推進地域計画

- 1 アイヌ施策推進地域計画の名称
釧路市アイヌ施策推進地域計画
- 2 アイヌ施策推進地域計画の作成主体
北海道釧路市
- 3 アイヌ施策推進地域計画の目標

(1) 地域におけるアイヌ文化等の現状及び課題

釧路地区(旧釧路市)においては、釧路川河口の高台を中心に古くからコタンが形成され和人との交易がなされており、それらは幕府がアイヌの人々と交易を行う釧路場所へと移行するという歴史があった。また阿寒地区(旧阿寒町)では、多くのアイヌの人々が本町地区周辺に居住し、阿寒湖周辺を狩場としてクマやシカを獲り、釧路場所での交易品としていた。

しかしながら明治以降の政府の勸農政策の影響により、アイヌの人々の生活は農耕主体の生活へと生活様式が変遷し、阿寒湖周辺をアイヌの狩場とするイオルは急速に失われ、伝統的な生活文化の継承も次第に困難になっていった。

釧路市には現在 1,121 人のアイヌの人々が居住し釧路市全人口の約0.6%を占めており、この数字は全道の人数の約6.7%に当たる(H25アイヌ生活実態調査)。

釧路市におけるアイヌ文化を取り巻く現状と課題について、釧路アイヌ協会が活動の拠点としている春採地域では、春採生活館で例年イチャルパ等の儀式を行っているほか、同生活館において道外から当市へ移住、長期滞在する方々や観光客を取り込んだアイヌ文化を体験できる事業として、刺繍、木彫、舞踊、トンコリ、語学、料理などの講習会等を行っており、同生活館はアイヌ文化の発信拠点として重要な役割を担っている。

一方で、釧路地区においてはアイヌ文化の伝承者の高齢化や経済的理由などにより、伝承活動は一部の有志のみに限定したものとなっているほか、活動拠点である春採生活館についても、建築から40年以上経過し老朽化が目立ち始め、文化伝承事業などの参加者の増加による狭隘化もあり、改築を要望する声が上がっており、今後、施設の状況を見極めながら、祭事や儀式、文化伝承事業の機能を充実させた改築、多機能型交流施設への転換などを検討していく必要がある。

また、釧路市立博物館や釧路市動物園においてもそれぞれにアイヌ文化の情報発信を行っているところであるが、釧路市立博物館においては世界最古級の木綿衣をはじめ貴重な所蔵品があるものの従来の手法では紹介が困難であり、さらにインバウンドの増加に伴い映像展示等新たな手法による情報発信が求められているほか、釧路市動物園においては体系的なアイヌ文化の情報発信までには至っておらず、アイヌの人々の自然との共生と動物たちの関連性を持たせた発信が求められる。

阿寒アイヌ協会の主な活動の拠点となる阿寒湖温泉地区については、戦後観光業が盛んになるにつれ、工芸品販売や歌、踊りなどアイヌ文化への需要が高まり、道内他地域からアイヌ工芸家等が流入し、昭和34年には前田一歩園主の前田光子氏がアイヌ民族に

土地を無償提供し、それまで分散していたアイヌ民族が集結。その後共同作業場が設置され、民工芸品店が軒を連ねる道内でも最大規模を誇る現在のアイヌコタンの原型が出来上がった。工芸家の中からは、故瀧口政満氏や故藤戸竹喜氏、故床ヌブリ氏など著名な工芸作家が誕生している。

上記のような経緯もあり、阿寒湖温泉地区においては、古くからアイヌ民族と和人とが協働したまちづくりを行ってきており、阿寒湖のアイヌ文化は他の地域にはない特色を有し、同じ市にある釧路地区と比べても異なった状況となっている。

しかしながら、阿寒湖温泉地区においても、アイヌコタンを支えてきた工芸家等が高齢化し、さらにはアイヌ工芸をはじめとするアイヌ文化を担うべき次世代の担い手についても、地域経済の低迷による雇用機会の減少等により地元を離れ、阿寒湖のアイヌ文化の特徴である高い工芸技術を継承・伝承していくことは喫緊の課題となっている。

これらのことから、釧路・阿寒の両協会が共同体を組織して実施するイオル再生事業等によるアイヌ文化の伝承・継承事業はもとより、アイヌ工芸技術の後継者育成の仕組みづくりが急務になっている。

さらには伝統は守りつつこれまでにない新たなアイヌ文化を活用したコンテンツの開発や国内外に向けたプロモーション等の取り組み、既存施設の活用を含めた体験プログラムの提供、持続的な価値を生み出す阿寒湖アイヌ文化のブランド化を進めるなど、経済的な自立に向けた取り組みを推進していくことが必要となっている。

こうした中で、アイヌ文化の価値向上、知的財産の保護管理などを目的とした一般社団法人阿寒アイヌコンサルンが、令和元年8月に設立されており、阿寒湖温泉地区のアイヌ文化の価値向上の取り組みの一翼を担うことが期待されている。

※アイヌ関連団体

- ※釧路イオル共同体(設立:平成30年1月)
- ※釧路アイヌ協会(設立:昭和35年4月)
- ※リムセ保存会(設立:昭和42年2月)
- ※阿寒アイヌ協会(設立:昭和36年4月)
- ※阿寒アイヌ工芸協同組合(設立:昭和61年10月)
- ※阿寒アイヌ民族文化保存会(設立:昭和43年12月)
- ※一般社団法人阿寒アイヌコンサルン(設立:令和元年8月)

※アイヌ文化等関連施設

- ・春採生活館
所在:釧路市春採1-12-22
現況:昭和53年12月設置 刺繍講習会など地域住民の交流の場となっている。
- ・緑町生活館
所在:釧路市阿寒町阿寒湖温泉4-7-43
現況:平成10年設置 阿寒湖のアイヌ人々の伝承活動、コミュニティ活動等の場となっている。
- ・阿寒湖アイヌシアターイコロ
所在:釧路市阿寒町阿寒湖温泉4-7-84

現況：平成24年4月設置 国内初のアイヌ古式舞踊専用シアターとしてアイヌ古式舞踊等の演目を上演中。

・オンネチセ

所在：釧路市阿寒町阿寒湖温泉4-7-19

現況：昭和60年4月設置 過去には古式舞踊のほか様々なアイヌ文化の発信イベントの拠点となっていたが、イコロ開設後は工芸品の展示などにとどまっており、その有効活用が課題となっている。

(2)アイヌ施策推進地域計画の目標

地域におけるアイヌ文化の着実な伝承・継承活動や様々な形でのアイヌ文化の発信等を通じて、アイヌの人々が民族としての誇りをもって生活でき、その誇りが尊重される地域社会の実現を目指す。

(3) 数値目標

事業	アイヌ文化の保存又は継承に資する事業 (伝統的なアイヌ文化・生活の場の再生支援事業)	アイヌ文化の保存又は継承に資する事業 (阿寒湖原産のヒメマス祭り(カパチェプノミ)情報発信事業)	アイヌの伝統等に関する理解の促進に資する事業 (アイヌ音楽文化育成事業)	観光の振興その他の産業の振興に資する事業 (阿寒湖アイヌ文化体験事業)
KPI	体験交流事業の参加人数	イベント参加者数	伝承会開催回数	オンネチセ利用者数
令和元年度 (基準年度)	—	—	—	(実施設計実施)
令和2年度	60人/年間	300人/年間	48回/年間	1万人/年間
令和3年度 (中間目標)	60人/年間	600人/年間	48回/年間	3.5万人/年間
令和4年度	60人/年間	800人/年間	48回/年間	5.3万人/年間
令和5年度 (最終目標)	60人/年間	1,000人/年間	48回/年間	5.3万人/年間

事業	観光の振興その他の産業の振興に資する事業 (アイヌ文化ガイド事業)	観光の振興その他の産業の振興に資する事業 (阿寒湖アイヌ文化ブランド化に向けた知的財産保護事業)	観光の振興その他の産業の振興に資する事業 (阿寒湖アイヌアーティストのブランド化事業)	観光の振興その他の産業の振興に資する事業 (阿寒湖アイヌコタン商店街活性化事業)
KPI	阿寒湖温泉延泊者数	相談件数	阿寒湖温泉延泊者数	参加全店舗の売上対前年度比

令和元年度 (基準年度)	60万人/年間	5件/年間	60万人/年間	—
令和2年度	63万人/年間	8件/年間	63万人/年間	(イベント実施)
令和3年度 (中間目標)	65万人/年間	12件/年間	65万人/年間	3%増/年間
令和4年度	68万人/年間	16件/年間	68万人/年間	—
令和5年度 (最終目標)	70万人/年間	20件/年間	70万人/年間	—

事業	観光の振興その他の産業の振興に資する事業 (アイヌ文化関連観光プロモーション事業)	観光の振興その他の産業の振興に資する事業 (アイヌ文様を活用したアパレル商品等販売促進事業)	観光の振興その他の産業の振興に資する事業 (アイヌ文化情報発信体験拡散プロモート事業)	観光の振興その他の産業の振興に資する事業 (アイヌ文化フェスティバル開催事業)
KPI	阿寒湖温泉延宿泊者数	商品の売上高	阿寒湖温泉延宿泊者数	阿寒湖温泉延宿泊者数
令和元年度 (基準年度)	60万人/年間	(イベント実施)	60万人/年間	60万人/年間
令和2年度	63万人/年間	1,500千円/年間	63万人/年間	63万人/年間
令和3年度 (中間目標)	65万人/年間	—	65万人/年間	65万人/年間
令和4年度	68万人/年間	—	68万人/年間	68万人/年間
令和5年度 (最終目標)	70万人/年間	—	70万人/年間	70万人/年間

事業	観光の振興その他の産業の振興に資する事業 (アイヌ工芸技術後継者育成事業)	観光の振興その他の産業の振興に資する事業 (釧路市立博物館アイヌ文化展示コーナー強化事業)	観光の振興その他の産業の振興に資する事業 (神々(カムイ)に逢える釧路市動物園整備事業)	地域内若しくは地域間の交流又は国際交流の促進に資する事業 (高齢者コミュニティ活性化による文化知見の伝承・共有化事業)
KPI	制作種類	博物館入館者数	釧路市動物園入園者数	緑町生活館、春採生活館の延べ利用人数
令和元年度 (基準年度)	—	3万人/年間	(事前調査実施)	2,000人/年間
令和2年度	2種類/年間	3.09万人/年間	(基本構想策定)	2,000人/年間
令和3年度	2種類/年間	3.18万人/年間	(基本構想策定)	2,000人/年間